

ケルン体育大学におけるスポーツ関連職業向け SCO-OP プログラム 研究の雇用市場及び教育課題

クリストフ・ブリューワ

ドイツ：ケルン体育大学 教授

セバスティアン・カイザー

ドイツ：スポーツ経済 / スポーツマネジメント研究所

要 約

近年のスポーツの商業化は、スポーツマネジメントの重要性を高めている。その結果、スポーツマネジメントは専門職として確立され、適切な育成プログラムを開発する必要性が大幅に高まってきた。そうした育成プログラムを開発するにあたり、ドイツで行われているスポーツマネジメントに必要とされる能力（コンピテンシー）の研究から、適切なカリキュラム開発の指針が示されている。この研究は、1980年代のアメリカ合衆国で研究された適正能力基盤教育（CBE）と呼ばれるコンセプトに基づいて行われ、マネジメント業務の研究の組織化及び区分化に関する方法論が確立された。しかし、これまでに現場で得られた知識と経験も非常に重要と思われるため、関係者には質疑応答だけでなく、マネジメントの様々な活動と必要なコンピテンシーの関連性を評価してもらうことでデータの大部分を取得した。ここでいう関係者とは、営利、非営利、民間の各組織で実務に当たっているマネジャーたちのことである。各組織の明確な差は別にしても、被雇用者の指導と意識づけ、管理はそれぞれにとって非常に重要であり、こういったコンピテンシーが必要という枠組は共通していた。ただし、マネジメントの本質的な業務に加え、コミュニケーションが重要な役割を担っているという点も確認されている。そこで適切な育成プログラムを提供するためには、一般的なトレーニングに専用モジュールを導入する方法が有効であると提議した。とはいえ、各データをオールラウンダー、アドミニストレーター、デリゲーターの3グループに分類し、各特徴を定義するためにクラスター分析を行っている。そして最後に、実際のマネジャーたちから得た教訓について、その認識と解釈は主観的なものであるという点を考慮する必要があるということを念頭においておかなければならない。